

復興に向かって各分野で活躍する方々にお話をうかがいました。



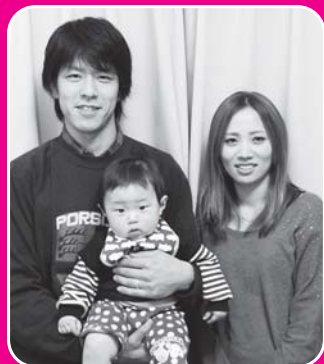
及川 満さん
(◎峰畑)

昨年は福興名店街がオープンし、町飲食店組合のメンバーとともにキラキラ丼の復活も実現することができました。おかげさまで、予想以上のお客様にきてもらっ

て、ただただ忙しく1年が過ぎていきました。最近はいくらか落ち着いてきましたが、今年は、地元の方々にもっと来てもらえるような店にしていけるよう、メニューを増やしたり、内容を充実させることを目標に取り組みたいと考えています。町の市場には魚と活気が戻ってきているので、町で獲れる新鮮な魚介類をアピールできるよう調理して、発信することが、ここで商売をさせてもらっている私たちができると感じています。

個人的には、昨年は毎日朝から深夜まで仕事ばかりの1年で、仮設住宅にも寝るために帰っているような状態でした。家のことは放ったらかしでしたし、申し訳ないと思っています。仕事も大事ですが、今年は、それだけでなく、忙しいながらももう少し余裕をもって、家族と一緒に時間を過ごしたいと思っています。

及川 誠司さん
(◎田尻畑)



昨年は、まさに復興元年の年でした。菊栽培も再開できましたし、賞をいただくことができました。個人的にも息子が生まれるなど、公私ともに前に進んだ年だったと思います。

昨年はバタバタといきあたりばったりのような形で何事も過ぎて行った感じがありました。今年は、仕事の面でも、スムーズに進んでいければという気持ちで、焦らず震災前の状況に戻っていけるようになれば良いと思っています。震災発生翌月に結婚式を控えていたのですができるような状況ではなかったため、今年、式を挙げたいと思っています。

これからの子どもたちのために、安心して南三陸町で生活していけるように今、私たち大人ができることを、ゆっくりと、しかし確実にやっていかなければと感じています。

※及川さんは南三陸町復興組合「華」のメンバーで、昨年は県の花き品評会で農水大臣賞を受賞されました。

今年の抱負



佐藤 正浩さん
(◎津の宮)

養殖など海の仕事は今年も楽観視できない状況が続きますが、良いものを提供できるよう覚悟を持ってやっていきたいと思います。昨年は水揚げも開始され、順調じゃないにしても仕事ができることの喜びを感じました。ただ同時に、風評被害や価格の伸び悩みなどで苦しめられました。護岸も見たとおりの状態で、作業時間やできることも限られており、思うようにいかないのが現状です。これからも様々な問題が出てくると思いますが、悪いなりに、できないと嘆くより、工夫して切り抜けていきたいと思います。

家に帰れば、小・中・高校に通う子どもがいて、今年を受験も控えているので、特に大事な年になります。社会に出れば、被災者でも何でも関係ないので、ハンデを乗り越え、逆境に負けないような、精神的な成長を手助けしたいと思っています。

これからの大切な世代を抱えている親の役割として、子どもたちの将来の負担を減らすような社会、家庭をつくっていきたくと思っています。



山内亜由美さん
(◎押館)

ペイサイドアリーナでインストラクターとして働いています。営業が再開され、来てくださる方も徐々に増えてきました。本当にありがたく思っています。ボランティアの方々にも訪れていただくなど、いろいろな方と出会うことができ、ここで仕事をさせていることにとても感謝しています。

今年は、初心を忘れずに、陰ながら皆さんの健康づくりのお手伝いができるよう頑張りたいと思っています。また、皆さんが、構えずにリラックスできる、気軽に来てくださるような雰囲気をつくっていただけるとあってと思っています。

仕事柄連休がほとんどとれないので、今年連休がとれれば遠出をしたいと思っています。とにかく体を動かすことが好きで、地元チームで「綱引き」をやっています。大会などにも出たいのですが、残念ながら女子チームは現在3人しかメンバーがいなく、出場することができません。大会に出場するためには8人メンバーが必要なので、興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひお声掛けください。

庄内の風 ⑦

友好町の山形県庄内町を紹介する情報コーナー

伊里前漁港でワカメ養殖の漁業体験交流を実施しました

11月11日(日)、歌津伊里前漁港で、庄内町の小中学生の親子53人と庄内町国際交流協会が募集した町民16人の合わせて69人が参加し、ワカメ養殖の漁業体験交流が行われました。



参加者は、地元漁協関係者の指導のもと、小さなワカメの種を1つずつロープにはさむ作業を行いました。初めての参加者も、次第にコツを覚え、ワカメの種

を付けたロープを次々に海に沈めていました。作業後、平成の森で行われた昼食交流会では、庄内町の子どもたちから漁協の関係者に、たくさんの方の復興を願うエールが書き込まれた手作りの大漁旗や、自分たちで育てた枝豆を販売して集めた義援金などが手渡され、漁協の関係者を喜ばせていました。参加者は、「このような交流を通して、これから、ますます心の絆を深めたい。第二の故郷と言えるよう、交流していきたい。」と話していました。



復興応援大使 リレー通信 ⑦

各地で南三陸町の地域ブランドのPRや復興まちづくりの状況をお知らせいただいている南三陸町復興応援大使の皆さんの声をお届けする「復興応援大使リレー通信」を連載しています。今回は、ボランティアとして無料ダンススクールなど様々な活動を通して支援いただいている元宝塚歌劇団の妃乃あんじさんです。



復興応援大使
妃乃あんじさん
(大阪市住吉区)

拝啓・愛する南三陸町の皆様へ

謹んで初春のご挨拶を申し上げます。新たな年の始まりに、こうしてご挨拶させていただけます事、大変嬉しく思っております。

私はこの復興応援大使リレー通信にご登場される皆様のようにこの町と縁がある訳ではなく、震災後初めてこの地に訪れ、それまでこの南三陸町に限らず東北地方は全くご縁がなく過ぎて参りました。

ですが今日まで、この町に携わる皆様の熱い思いと同じように私自身も毎日南三陸町を思いながら歩いて参りました。

私のこれまでの活動としましては、瓦礫撤去などのボランティアを初め、他地方への支援の呼び掛け、また宝塚コンサートやフラダンスレッスンなど自分に出来る事から少しずつではございますが大阪から毎月通わせていただいております。私自身、震災の10日前に最愛の母を亡くし、どん底にいた所あの震災をニュースで拝見いたしました。それから私の青春であった宝塚歌劇団を卒業し、震災から8か月たった頃、漸く被災地を訪れることができました。

南三陸町は宝塚市と支援協定を結んでいたということもそこで初めて知り、これもきっとご縁だと感じ、それから何度

も通わせていただく中でこの町に携わる沢山の方とご縁をいただきました。きっとここでの出会いは母が繋げてくれたりとも感じています。

南三陸町と出会って1年が過ぎる今、支援する側の私がこの町の温かさに私の方が支えていただいていた事に気づかされました。

これからは支援ではなく、支えるご縁の『支縁』として愛する南三陸町に恩返しをする気持ちでお邪魔させていただきたいと思っています。

第二の故郷宝塚から、今は第三の故郷南三陸町を思い、寒い冬でも温かさを感じさせていただく毎日です。

町でもし私を見かけましたら是非お声掛けてくださいませ。どうぞ、新しい1年が南三陸町の皆様にとりまして佳き1年でありますよう心よりお祈り申し上げます。

妃乃あんじ復興応援大使無料ダンスレッスン(フラダンス)情報

1月11日(金)、15日(火)	TERACO音楽スタジオ(廻館)	19:00~20:15
1月18日(金)	ペイサイドアリーナ	18:45~20:00

※準備物等詳細は問い合わせください。
問い合わせ あんじダンスLesson事務局 ☎090-5619-5171